

農林水産研究タイムリー情報

2025年3月31日時点

(合計159件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
<b>①農業研究部 (計38件)</b>						
1825	農業研究部	<p>【ほんまもん農産物認定生産者研修会を開催】 (2025. 3. 19発信)</p> <p>3月17日に臼杵市役所野津庁舎で標記研修会が開催され、臼杵市で有機農業に取り組んでいる生産者20名が参加しました。農業研究部土壌・環境チームから土壌環境の基礎知識や有機質肥料の特性について、病害虫対策チームからジャガイモ栽培を例にしたウイルス病の被害と対策について講演を行いました。今後も研修会等での情報提供を通して生産者の技術向上に寄与していきます。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2025.4.30
1824	農業研究部	<p>【ファーマーズスクール合同研修会を開催】 (2025. 3. 19発信)</p> <p>3月12日に中部振興局で標記研修会が開催され、中部管内(大分市、由布市等)のピーマンファーム研修生や新規就農者など約20名が参加しました。農業研究部土壌・環境チームから土壌の基礎と土づくりについて、病害虫対策チームから病気が発生しやすい気象条件について講演を行いました。今後も研修会等での情報提供を通して生産者の技術向上に寄与していきます。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2025.4.30
1817	農業研究部	<p>【病害虫防除の基礎研修会を開催】 (2025. 3. 5発信)</p> <p>2月18日に南部振興局で標記研修会が開催され、南部管内の若手生産者や篤農家など約10名が参加しました。当チームからは、病害虫防除の基礎的な内容と農薬散布のポイントについて講演を行いました。病気が発生しやすい気象条件や葉害が発生する要因等について多数質問が寄せられました。今後も研修会等での情報提供を通して生産者の技術向上に寄与していきます。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2025.3.31
1814	農業研究部	<p>【大分シャインマスカット室内研修会で灰色かび病対策を紹介】 (2025. 2. 18発信)</p> <p>2月6日にJA全農おおいたで標記研修会が開催され、県内若手生産者など約40名が参加しました。当チームからは、灰色かび病における環境制御の重要性について講演を行いました。農薬に頼らない対策事例として、イチゴで試験中のダクト配置改善等による湿度環境の制御技術を紹介しました。今後も研修会等を通して情報提供や生産者の技術向上に寄与していきます。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2025.3.31
1806	農業研究部	<p>【施肥防除対策研修会を開催しました】 (2025. 2. 6発信)</p> <p>12月10日に大分市で標記研修会が開催され、県内農業団体職員や農業関係の県職員など約150名が参加しました。農業研究部からは、土壌・環境チームより高糖度カンショについて、病害虫対策チームよりネギアザミウマの薬剤感受性検定等3課題についてそれぞれ発表を行いました。今後も研修会等を通して情報提供や技術の向上に取り組んでいきます。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2025.2.28
1799	農業研究部	<p>【「生態と防除研究会」を開催しました】 (2024. 12. 24発信)</p> <p>12月19日・20日に大分市で標記シンポジウムを大分県が事務局として開催し、全国26府県等の病害虫研究者や農業関係の県職員など73名が参加しました。当チームから、ピーマン軟腐病とイチゴ灰色かび病に関する2つの課題の講演を行いました。講演後の質疑応答では、参加者から積極的なご意見をいただき、病害虫防除に関する研究のあり方について活発な議論が行われました。今後も研究会などを通して病害虫防除の情報共有や技術の向上に取り組んでいきます。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2025.1.31

農林水産研究タイムリー情報

2025年3月31日時点

(合計159件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1798	農業研究部	<p>【イチゴの炭そ病検定を実施しました】 (2024. 12. 23発信)</p> <p>果菜類チームでは、県オリジナルイチゴ「ベリーツ（大分6号）」の原種（ウイルスフリー苗）を許諾先である全農おいたへ供給しています。原種は病害に感染しないように隔離したハウスで栽培・増殖し、配布前に重大病害である炭そ病感染の有無を検定します。今年も、約930株の苗を対象に炭そ病検定を実施したうえで供給しました。</p> <p>注）写真は、苗から採取した葉を28℃で2週間保温した後、炭そ病菌が感染している兆候の有無を確認している様子</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2025.1.31
1788	農業研究部	<p>【インターンシップを行いました】 (2024. 12. 12発信)</p> <p>12月4日に、大分県職員（農業）の仕事に興味がある大学生3名を対象にインターンシップを実施しました。午前中は土壌・環境チームの業務を説明し、土壌炭素調査の実習を実施しました。午後は葉根菜類・茶業チームで白ねぎの栽培試験を説明した後、実際に白ねぎの収穫を行い、皮を剥くなどして商品の状態まで調製してから、重さや軟白長等の調査を行いました。当部では、学生の県農業分野の業務に対する理解が深まるよう、今後もインターンシップ学生を受け入れていきます。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2072 (土壌・環境チーム) 0974-28-2082 (葉根菜・茶業チーム)	2024.12.31
1784	農業研究部	<p>【AIを活用したスマート農業技術研修会を開催しました】 (2024. 12. 6発信)</p> <p>佐賀大学名誉教授の新井先生をお招きし、「AIによる衛星データ解析に基づく農林水産資源管理」について、研究員対象の講演会を開催しました。また、当チームで取り組んでいる「画像診断による一番茶萌芽日特定技術の開発」について先生から助言いただき、今後の実用化に向けて参考になる議論ができました。</p> <p>(萌芽：お茶の樹から新芽がでること)</p>		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2024.12.31
1779	農業研究部	<p>【新任普及職員による白ねぎの技術研修】 (2024. 11. 27発信)</p> <p>11月19日に、野菜担当となった1年目の普及職員に対して研修を行いました。今回も県の普及職員に加えてJAと大分市の職員も参加し、農業研究部で行っている白ねぎの肥料コスト削減に向けた栽培試験について説明しました。その後、出席者は白ねぎの収穫を行い、皮を剥くなどして商品の状態まで調製してから、重さや軟白長等の調査を行いました。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2024.12.31
1778	農業研究部	<p>【新任普及職員によるカンショの収穫体験研修】 (2024. 11. 27発信)</p> <p>11月8日に、野菜担当となった1年目の普及職員に対しての研修を行いました。今回は、県の普及職員に加えてJAと大分市の職員も参加し、カンショ収穫機（写真）による収穫を体験しました。また、貯蔵したカンショの糖度調査を行うなど実践的な技術を習得しました。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2024.12.31
1776	農業研究部	<p>【たまねぎ育苗で技術確立】 (2024. 11. 26発信)</p> <p>国東市における「たまねぎ」の産地化に向けて、機械定植に適した育苗方法を農業研究部の場内ハウスで検討しました。今後、育苗培土の種類や育苗トレイの下に敷く資材等が、根鉢の形成にどのような影響を与えるか検証していきます。</p> <p>※根鉢：容器の中で根が張り土と一体化して崩れにくくなる状態</p>		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2024.12.31

農林水産研究タイムリー情報

2025年3月31日時点

(合計159件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1765	農業研究部	<p>【べにはるか収穫】 (2024. 10. 21発信)</p> <p>「べにはるか」は、きめ細やかでしっとりとした舌触りが特徴のかんしょ(さつまいも)の品種で、大分県では高糖度かんしょとして作付を推進しています。 農業研究部では、場内圃場で9月下旬から、「べにはるか」の収穫を開始しました。現在、5月上旬に定植した分を収穫しています。定植以降に高温・乾燥が続きましたが、スプリンクラー等のかん水で生育への影響を最小限にとどめました。 今後、収穫調査や品質評価等を行っていきます。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2024.11.30
1758	農業研究部	<p>【カーボンニュートラル等基礎調査事業】 (2024. 10. 8発信)</p> <p>土壌・環境チームは堆肥等有機物投入の有無による畑地土壌中の炭素や窒素の貯留量の経年変化を調査する「カーボンニュートラル等基礎調査事業」に取り組んでいます。今回、農業研究部場内圃場の基準点(畑)に、9月20日にハクサイを定植し、順調に生育しています。 今後は、ハクサイの収量調査、植物体の分析を行うとともに、収穫後の土壌を採取して土壌の物理性および化学性を分析します。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2024.10.31
1757	農業研究部	<p>【全国土壌調査法検討会が開催されました】 (2024. 10. 2発信)</p> <p>農林水産省委託事業(農地土壌炭素貯留等基礎調査事業及び地力調査事業)の一環として、全国の農業試験研究機関の研究者等(108人)を対象とした検討会が9月26日、27日の2日間にわたり本県で開催されました。 検討会では農業研究部場内圃場と豊後大野市清川町の現地圃場で土壌断面調査方法の研修を行いました。翌日には県庁会議室で当事業に関する講演が行われ、参加者の資質向上が図られました。</p>	 土壌断面調査   室内検討会	農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2024.10.31
1756	農業研究部	<p>【白ネギの病害虫に効果的な農薬の検定結果を紹介しました】 (2024. 10. 2発信)</p> <p>9/25-26に長崎県諫早市で第2回九州病害虫防除協議会技術研修会が開催され、九州各県研究機関及び農薬メーカー関係者ら総勢86名が出席しました。大分県からは、白ネギで問題となっているネギアザミウマ、シロイチモジヨトウ及び黒腐菌核病に効果的な農薬の検定結果について紹介しました。今回紹介した検定結果は、産地の防除暦に反映しております。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2024.10.31
1748	農業研究部	<p>【2年目普及員等を対象とした研修を実施しました】 (2024. 9. 10発信)</p> <p>9月3日に、野菜担当の2年目普及員等を対象とした研修を行いました。今回は、県の普及員(振興局)の他に大分市の職員も参加し、実際にトマトに触れながら莖径や葉の大きさなどの測定を行いました。また、収穫した果実の糖度や酸度を測定し、トマトの栽培について理解を深めました。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2024.9.30
1741	農業研究部	<p>【輪作に対応した転炉スラグの積極的な活用技術を検討しています】 (2024. 8. 30発信)</p> <p>転炉スラグは製鉄過程の副産物で、石灰等を多く含み、長期的に土壌改良効果を持つ資材です。その特性を活かし、高い土壌pHを維持することで、アブラナ科根こぶ病など一部病害を軽減できますが(※)、逆にジャガイモのそうか病などでは被害が増大することが知られています。そのため、輪作体系においては、品目や施用量の検討が必要であるため、今回はニンジンの生育や収量に及ぼす影響を調査しています。</p> <p>(※)殺菌効果はなく、農薬ではありません。</p>	 転炉スラグ適用試験   転炉スラグ	農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2024.9.30

## 農林水産研究タイムリー情報

2025年3月31日時点

(合計159件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1739	農業研究部	<p>【イチゴハウスにヒートポンプを設置しました】 (2024. 8. 28発信)</p> <p>8月26日に、イチゴの栽培試験で使用するヒートポンプを、農業研究部内ハウスに設置しました。イチゴ栽培におけるヒートポンプは冬季の補助暖房としての利用が一般的ですが、今回の試験では、秋期の夜間に「冷房機能」を使用し、生育や収量等に及ぼす影響を調査します。年々、深刻化する夜温上昇問題の打開策として、期待されています。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2024.9.30
1733	農業研究部	<p>【いちごIPM技術研修会を開催しました】 (2024. 8. 9発信)</p> <p>7月31日に大分市でいちごの総合的病害虫・雑草管理(IPM)研修会を県で開催し、生産者やJAおおいだ職員、県職員等約50名が出席しました。研修会の中で、当チームから、害虫に関して、アザミウマ防除のポイントと課題について、病害に関して、灰色かび病に対する耕種的方法と、育苗期のうどんこ病対策について説明を行いました。今後も連携してIPM技術の取り組みを支援していきます。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2024.8.31
1727	農業研究部	<p>【大分県茶品評会を実施しました】 (2024. 7. 29発信)</p> <p>今年で56回目となる大分県茶品評会審査会を、農林水産研究指導センターの検茶室で実施しました。煎茶の部、玉緑茶の部に県内各地から合計28点(昨年22点)の出品があり、5人の審査員が外観(見た目)、香気(香り)、水色(お茶の色)、滋味(味わい)について審査を行いました。今後、この審査結果を出品者につなぎ、さらに高品質な茶生産を推進します。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2024.8.31
1717	農業研究部	<p>【カンショの有望品種を試験栽培中】 (2024. 7. 16発信)</p> <p>農業研究部では、国の研究機関が開発したカンショ(サツマイモ)の有望品種について、本県での栽培特性を調査するために品種比較試験を行っています。5月14日に、食味や外観品質に優れた品種(関東163号)とサツマイモ基腐病抵抗性が期待される品種(関東164号)を定植し順調に生育しています。10月中旬の収穫まで生育調査を行っていきます。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2024.8.31
1714	農業研究部	<p>【転炉スラグの長期的効果を現地試験で検証しています】 (2024. 7. 10発信)</p> <p>転炉スラグは、製鉄所で鋼を製造する過程でできる副産物で、石灰や鉄分を多く含む資材です。土壌改良材として農業でも使われ、一度施用すると長期的に土壌改良効果を発揮すると考えられています。</p> <p>農業研究部では、2019年度から竹田市の現地圃場で長期的効果の調査を行っており、今回はスイートコーンの収穫調査等を実施しました。施用から5年経過した今年度も、当初設定した土壌pH7.5をほぼ維持しています。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2024.7.31
1711	農業研究部	<p>【水田からのメタン排出抑制に向け、含鉄肥料の効果を調査します！】 (2024. 6. 28発信)</p> <p>水田で水を溜めると土中の酸素が不足し、メタンガスが発生しますが、鉄を含む肥料を使用すると、鉄分が酸化剤として働くため、メタンガスの発生が抑制されると考えられています。</p> <p>含鉄肥料の施用による水田からのメタン排出抑制効果を調査するため、水田農業グループ(宇佐)の水田圃場で資材の施用や水稲の定植等を6月20日に完了しました。これから収穫までの間、当圃場から発生するメタンの量を毎週調査し、その効果を明らかにしていきます。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2024.7.31

## 農林水産研究タイムリー情報

2025年3月31日時点

(合計159件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1708	農業研究部	<p>【イチゴの実生（みしょう）播種を実施しました】 (2024. 6. 17発信)</p> <p>イチゴの新たな品種を作るため、優れた性質を持つ異なる品種を交配して育て、3~4月に成熟した実から種を採取しました。この種から発生した苗を実生苗といい、同じ親同士の組合せであっても、1つ1つ違う個性を持っています。</p> <p>5月24日にイチゴの実生苗を得るための播種を実施しました。今後は実生苗を育てて約2,500株をほ場に定植し、この中から新品種の候補を選抜します。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2024.7.31
1707	農業研究部	<p>【県産茶消費拡大「大分県産茶を飲もう」活動】 (2024. 6. 14発信)</p> <p>6月6、7日の2日間、新茶の販売開始に併せ、センター来場者対象にお茶の消費拡大活動を行いました。お茶の試飲やお茶の入れ方教室を開催し、製茶工程を動画で説明、県産茶の産地や生産者の紹介も行いました。試飲の際には、水温による成分の抽出特性を説明し、温かいお茶と冷たいお茶の違いを体験してもらいました。お茶のリキュール等、新しい茶の楽しみ方も伝えることができました。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶葉チーム	0974-28-2082	2024.6.30
1706	農業研究部	<p>【イチゴの遺伝子解析のためにDNAを抽出しました】 (2024. 6. 14発信)</p> <p>イチゴの遺伝子を解析するため、農業研究部で保有するイチゴ160個体の葉からDNAを抽出しました。抽出したDNAは、「かずさDNA研究所」（千葉県）と共同で解析します。DNAには、各個体の様々な遺伝情報が集約されています。今後は、「イチゴの日持ち性等に関与する果実硬度」に関連する遺伝子を特定していきます。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2024.6.30
1705	農業研究部	<p>【ピーマンにおける混合堆肥複合肥料の利用可能性の検討】 (2024. 6. 13発信)</p> <p>当チームでは、産業廃棄物の利活用やプラスチック含有肥料の削減を目的として、堆肥を原料とした肥料(混合堆肥複合肥料)の試験を行っています。今年度、ピーマンの元肥および追肥に混合堆肥複合肥料を使用して収量性を調査し、利用可能性を検討しています。今回、追肥として混合堆肥複合肥料「レコアップ684」を散布し、なり疲れ(収穫が進むと樹勢が弱る症状)対策に有効かどうかを評価します。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2024.6.30
1699	農業研究部	<p>【堆肥入り肥料を用いた白ねぎ試験の定植を行いました】 (2024. 6. 11発信)</p> <p>昨年の試験で、「鶏ふん堆肥」という同じ名称で販売されていても、商品によって分解速度が異なる事が明らかになりました。</p> <p>そこで今年度は、窒素の供給速度の異なる鶏ふん堆肥を原料にして堆肥入り肥料を2種類試作し、白ねぎの栽培試験を開始しました。今後、生育調査や収穫調査を行い、原料となる堆肥の違いが生育に与える影響を検証します。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2024.6.30
1698	農業研究部	<p>【野菜の専門技術研修（1年目）を実施しました】 (2024. 6. 10発信)</p> <p>今年度新たに野菜の普及担当となった県職員とJA職員の14名を対象に、野菜1年目専門技術研修を行いました。果菜類チームの圃場では、ハウス内の灌水量を測定したり、ピーマンの収穫選果作業を体験するなど、実践で用いる技術の習得を行いました。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2024.6.30
1697	農業研究部	<p>【JAおおいた玖珠九重トマト部会青年部の視察を受けました】 (2024. 6. 10発信)</p> <p>JAおおいた玖珠九重のトマト生産者8名が外気導入試験の視察に来られました。これは、ダクトを通してハウス内に外気を導入することにより植物体表面温度を低下させ、栽培環境の改善を図るもので、昨年度の試験結果や今年度の試験状況を紹介しました。また、今年度の試験内容やハウス内の環境改善技術について情報交換しました。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2024.6.30

## 農林水産研究タイムリー情報

2025年3月31日時点

(合計159件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1685	農業研究部	<p>【トマトハウスに外気導入装置を設置しました】 (2024. 5. 21発信)</p> <p>夏期の高温などのハウス内環境を改善し、収量や品質向上を図るために場内トマトハウスに外気導入装置を設置しました。 送風ファンで外気を吸い込み、ダクトを通してハウス内に外気を導入することにより、植物群落内の気温や炭酸ガス濃度、植物体表面温度などがより光合成に適した環境へ改善するかを検証します。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2024.6.30
1681	農業研究部	<p>【令和6年度の新茶を収穫しました】 (2024. 5. 9発信)</p> <p>農業研究部の茶園（豊後大野市、標高151m）で4月30日の「あさつゆ」を皮切りに一番茶の摘採、製茶が始まりました。3月末以降の萌芽は遅れ気味だったものの、その後の適度な降雨と高温傾向により、生育は順調です。摘採（約2ha）は5月7日まで行い、並行して試験区ごとの品質分析等の調査を進めています。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2024.5.31
1680	農業研究部	<p>【新任普及職員（農業・畜産）を対象に研修を実施しました】 (2024. 5. 9発信)</p> <p>今年度新たに県の農業と畜産の普及担当となった職員に対する研修が行われました。4月25日には農業研究部のピーマン、かんしょ、白ねぎ、茶の圃場・施設見学を実施するとともに各研究員から試験概要の説明を行いました。 今後、5月末からは担当品目に分かれて専門技術研修を実施し、農業技術者として養成を支援していきます。</p>		農業研究部 果菜類チーム 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2024.5.31
1675	農業研究部	<p>【白ねぎの肥料コスト低減に向けた試験を実施します】 (2024. 4. 18発信)</p> <p>近年、海外情勢により化学肥料の価格が高騰していることから、今年度肥料コスト削減を目的とした新たな試験に取り組みます。そのうちのひとつで化学肥料の代わりに鶏糞ペレットを活用した試験を実施します。4月12日に農業研究部の試験圃場（豊後大野市、標高151m）で白ねぎ品種「夏の宝山（みかど）」を定植しました。今後、肥料の違いが白ねぎの生育と収量等に及ぼす影響を明らかにする予定です。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2024.5.31
1674	農業研究部	<p>【トマトの土壌水分率の現地実態調査を開始しました】 (2024. 4. 17発信)</p> <p>灌水量や灌水頻度の違いによる土壌水分の動態を把握するため、竹田市のトマト生産者圃場(2戸)に土壌水分センサーを設置しました。 栽培期間を通して土壌水分のデータを測定し、灌水管理と土壌水分率の変動の関係を検証することを通じて生産者の栽培技術向上に役立てます。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2024.5.31
1672	農業研究部	<p>【下水汚泥資源の活用促進に係るMAP混合液肥の製造利用技術に関する実証研究】 (2024. 4. 10発信)</p> <p>当チームは化学肥料の代替として、下水汚泥資源から開発された再生リン(MAP)混合液肥を用いてピーマンの栽培実証試験を進めています。 4月5日に農業研究部内のハウスでピーマンを定植しました。今後は窒素成分の異なる2種類のMAP混合液肥と市販の液肥で、ピーマンの生育・収量を比較してMAP混合液肥の肥料代替適応性を検証します。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2024.4.30
1671	農業研究部	<p>【茶の萌芽調査をしています】 (2024. 4. 9発信)</p> <p>茶の収穫適期の指標となる萌芽の調査をしています。大分の今年の桜は昨年より2日遅く満開となりましたが、農業研究部の茶園（豊後大野市、標高151m：品種「やぶきた」）は、昨年よりも7日遅い4月5日に萌芽しました。予想気温、平年気温から推測すると、摘採日は昨年より4日遅い5月1日となりそうです。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2024.4.30

農林水産研究タイムリー情報

2025年3月31日時点

(合計159件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
<b>②水田農業グループ (計9件)</b>						
1820	水田農業グループ	<p>【今年4回目の麦類作柄判定試験結果を公表しました！】 (2025. 3. 11発信)</p> <p>水田農業グループでは、麦の生育状況を調査して、平年と比較・分析した調査データを公表しています。本年は1月下旬からの低温傾向により、3月5日時点で生育が平年より遅れている状況です。7月中旬頃まであと3回調査結果を公表しますので、当グループのHPで確認のうえ栽培管理に役立ててください。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 または 水田農業チーム	0978-37-1160	2025.3.31
1815	水田農業グループ	<p>【小麦の品質向上に向けた現地実態調査を実施！】 (2025. 2. 19発信)</p> <p>当グループでは、醤油・パン用小麦「はるみずき」の品質向上に向けた試験に取り組んでいます。試験実施にあたり、現地の栽培方法の課題を把握するため、振興局とともに、県下20ヶ所の圃場で管理や生育の状況を調査しています。今後は、生育・収量・品質の調査を行い、現地実態を把握した上で、より良い栽培技術を開発していきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 または 水田農業チーム	0978-37-1160	2025.3.31
1813	水田農業グループ	<p>【堆肥の活用で化学肥料の削減を目指します！】 (2025. 2. 14発信)</p> <p>当グループでは、水稲・大豆・麦栽培における化学肥料削減のため、牛・豚・鶏ふんを活用した施肥技術の研究を行っています。その一環で、牛ふん堆肥を分けつ肥として麦の4葉期に各試験区に散布しました。それぞれの堆肥を基肥や穂肥として代替することにより、化学肥料を削減した施肥体系を確立させ、環境負荷の低減を目指します。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 または 水田農業チーム	0978-37-1160	2025.2.28
1801	水田農業グループ	<p>【麦類作柄判定試験の播種が完了しました！】 (2024. 12. 24発信)</p> <p>当グループでは、平年の生育と比較・分析するための麦類作柄判定試験を行っています。標準播き4品種(11/20播)と遅播き2品種(12/17播)の2水準で実施しており、試験区の播種が完了しました。標準播きでは既に出芽しており順調に生育中で、両区とも年明けから定期的に生育調査を行う予定です。調査結果は当グループのHPで公表しますので、栽培管理に役立ててください。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2025.1.31
1750	水田農業グループ	<p>【大豆新品種「ちくしB5号」栽培研修会が開催されました】 (2024. 9. 25発信)</p> <p>令和7年度から現地で本格導入される大豆新品種「ちくしB5号」の栽培研修会が、9月3日に北部振興局の主催でウサノピアで開催されました。研修会では当グループの研究員が、栽培特性や収量安定技術の説明を行い、その後水田農業グループに移動し、場内で栽培している「ちくしB5号」の生育状況を参加者に確認してもらいました。参加者は熱心に受講されており、新品種への期待がうかがえました。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2024.10.31
1734	水田農業グループ	<p>【水稲の出穂は平年並～早まる見込みです】 (2024. 8. 23発信)</p> <p>水稲作柄調査において、出穂時期の予測や防除、水管理などの栽培指導に役立てるため、穂のもとである幼穂(ようすい)の長さを測る幼穂長調査を毎年実施しています。本年の気象は高温・多照で、出穂時期は平年並または平年より早まる見込みです。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 または 水田農業チーム	0978-37-1160	2024.9.30

## 農林水産研究タイムリー情報

2025年3月31日時点

(合計159件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1713	水田農業グループ	<p>【大豆新品種「ちくしB5号」の種子を急ピッチで増殖中】 (2024. 7. 9発信)</p> <p>当グループでは、水稲・麦・大豆奨励品種の優良種子を確保するため、採種生産者に供給する種子(原種)を生産しています。 今回、令和7年度から現地で全面転換予定である「ちくしB5号」の播種を7月6日に場内圃場で行いました。 今後は優良な原種生産に向け、随時異形株除去や病害虫防除を実施していきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 または 水田農業チーム	0978-37-1160	2024.7.31
1709	水田農業グループ	<p>【大豆新品種で多収栽培技術を実証中】 (2024. 6. 21発信)</p> <p>当グループでは、昨年度、県の大豆主力品種「フクユタカ」に代わる新品種として、「ちくしB5号」を選定しました。今年度は、「ちくしB5号」で早播栽培(6月播き)と排水対策技術を組み合わせることにより、慣行栽培(7月上旬播き)の「フクユタカ」より多収となることを実証する現地試験を行っており、6月12日に宇佐市内の現地圃場で新品種を播種しました。今後は両品種の生育収量を比較していきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2024.7.31
1687	水田農業グループ	<p>【種子用麦の収穫が始まりました！】 (2024. 5. 28発信)</p> <p>麦類採種生産者に供給する種子(原種)の収穫作業が始まりました。今年は二条大麦「トヨノホシ」と、小麦の「はるみずき」「チクゴイズミ」の3品種を栽培しており、今回は「トヨノホシ」の収穫を行ないました。残りの品種についても、随時収穫を進めていきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2024.6.30



農林水産研究タイムリー情報

2025年3月31日時点

(合計159件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
③果樹グループ (計6件)						
1777	果樹グループ	<p>【令和6年度園芸学会（秋）でカンキツ防除省力化について発表】 (2024. 11. 26発信)</p> <p>農業用ハウスでの防除省力化を目的に、当チームで試験導入した自走式防除機の性能について、永松研究員が園芸学会秋期大会にて発表しました。内容は、散布水の付着程度を比較検討することで、慣行樹形よりも垣根樹形で同防除機が有用であることが明らかになったもので、本会で多くの方から垣根樹形や同防除機について質問を受け、今後の参考になる議論ができました。</p>		果樹グループ 温州ミカンチーム	0978-72-0407	2024.12.31
1755	果樹グループ	<p>【大分県なし・ぶどう品評会】 (2024. 10. 1発信)</p> <p>9月21日にパークプレイス大分で大分県園芸活性化協議会主催による県なし・ぶどう品評会が開催されました。県下の主要産地から出品された計93点に対し、当グループ研究員や県普及指導員等による事前審査と、当日の最終審査で果実品質や外観の評価が高かった16点が入賞しました。本品評会を通じ、なし・ぶどう産地のさらなるレベルアップが図られる事を期待し、今後も試験研究機関として支援していきます。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2024.10.31
1736	果樹グループ	<p>【カンキツ生育状況】 (2024. 8. 27発信)</p> <p>当チームでは温州ミカン果実の肥大や品質について、1963年から60年以上「生態調査」の名称で、7月から10日間隔で調査しています。本調査は、温州ミカン作柄判定などに役立てられる重要なものです。今年は8月中旬時点で、国東市では梅雨明け後高温乾燥が続く、例年と比較して果実肥大が抑制されている傾向にあります。今後は収穫期まで調査を行い、適宜結果を情報提供していきます。</p>		果樹グループ 温州ミカンチーム	0978-72-0407	2024.9.30
1731	果樹グループ	<p>【アライグマ捕獲従事者講習会】 (2024. 8. 8発信)</p> <p>果樹グループ(宇佐)場内で、アライグマによる食害が増加してきたことから、落葉果樹チーム全職員で、宇佐市主催の捕獲従事者講習会を受講しました。講習には、生産者や当チーム職員を含む関係者等計16名が参加しました。受講後、宇佐市に捕獲従事者登録することで、アライグマ被害防止のための捕獲を行えるようになります。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2024.8.31
1710	果樹グループ	<p>【カンキツの生理落果について】 (2024. 6. 27発信)</p> <p>カンキツ類は花が終わると小さな果実をたくさん着けます。ところが、全ての果実が大きくなるわけではなく、着いている果実が多すぎると樹が自分で果実を落とします。これを生理落果と言い、6月から7月に起こります。主な原因は(1)果実と新芽(新葉)が競合し養分が不足するため、(2)未受精のため(温州みかんのように受精しなくても落果しないものもあります)等の影響です。</p>		果樹グループ カボス・中晩柑チーム	0972-82-2837	2024.7.31
1676	果樹グループ	<p>【カンキツの摘蕾作業】 (2024. 4. 22発信)</p> <p>5月になるとカンキツ類が白い花を咲かせ始めます。当チームが所在する津久見市では、連休明けの5月10日頃に開花のピークを迎えます。開花を前に「摘蕾(てきらい)」という蕾(つぼみ)を摘み取る作業を行っています。樹の状態にあわせて蕾を摘み取ることで、弱った樹の樹勢回復や幼木の枝の伸長を促します。</p>		果樹グループ カボス・中晩柑チーム	0972-82-2837	2024.5.31

農林水産研究タイムリー情報

2025年3月31日時点

(合計159件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
<b>④花きグループ (計18件)</b>						
1816	花きグループ	<p>【カエンボクの開花が始まりました】 (2025. 2. 27発信)</p> <p>花きグループの展示温室には200種類以上の熱帯植物が植栽されており、様々な種類の植物が楽しめます。中でも世界三大花木（ジャカランタ、ホウオウボク、カエンボク）の一つと言われるカエンボクの開花が始まりました。展示温室は、午前9時から午後4時まで一般開放しており、3月中旬にかけて炎のような赤い花が楽しめます。是非お越しください。</p>		花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2025.3.31
1797	花きグループ	<p>【ドライスイートピーでアレンジメント】 (2024. 12. 23発信)</p> <p>花きグループでは花の消費提案のひとつとして温泉の蒸気を利用したドライフラワー作りに取り組んでいます。この度ドライフラワーにしたスイートピーを利用して、別府市の華つねまつさんに装飾アレンジメントに取り組んでいただきました。この作品をベースに今後いくつかの小学校でフラワーアレンジメント製作に取り組んでもらう予定で、花育の効果が期待されます。</p>		花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2025.1.31
1791	花きグループ	<p>【輪ギクの現地実証を行っています】 (2024. 12. 18発信)</p> <p>県内で秋～冬にかけて栽培されている白輪ギクの主な品種は「神馬」ですが、この中から花きグループで独自に選抜した3系統に対して、シンクロトロン放射光を照射した結果、従来のもより強い芽無し性があり、早生でありながら切り花品質が優れ、濃黄色を持つより有望な3系統が得られました。今年度は、これら系統の現地適応性を明らかにするために現地で生産実証を行っています。</p>		農業研究部花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2025.1.31
1775	花きグループ	<p>【シクラメンの開花が始まっています】 (2024. 11. 25発信)</p> <p>冬を代表する鉢花といえばシクラメンが筆頭です。花きグループでは定番の花色である赤やピンク、白に加え、フリルの花びらを持ち、バラのような香りを放つ品種（ファルパラローズ）など様々な種類のシクラメンを試験の一環で栽培しています。当グループでは場内販売を行っていますので、お気軽にお越しください。</p>		農業研究部花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2024.12.31
1766	花きグループ	<p>【ヤマジノギクの開花が始まりました】 (2024. 10. 22発信)</p> <p>花きグループでは10月から12月まで継続して出荷できる優良な切り花形質を持つヤマジノギクの品種を育成しています。現在、7月上旬に定植したヤマジノギクの開花が始まっており、花のボリュームや草姿、花色、調整のしやすさなどの切り花形質を調査しています。調査したデータをもとに、より優れた系統を選抜していきます。</p>		農業研究部花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2024.11.30
1747	花きグループ	<p>【スイートピーの定植が始まりました】 (2024. 9. 10発信)</p> <p>花きグループではスイートピーの生育にとって適切な水分管理やEC（電気伝導度）の目安、また落蕾の少ない優良系統の開発などの試験に取り組んでいます。今年度は9月4日から（種子冷蔵した）スイートピーの苗を植え付ける作業が始まりました。今後は生育状況や水分量（PF値）、硝酸イオン濃度などの調査を行います。</p>	 <p>定植の様子</p>  <p>冷蔵処理した種子</p>	花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2024.9.30

## 農林水産研究タイムリー情報

2025年3月31日時点

(合計159件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1745	花きグループ	<p>【インターンシップの学生が活躍中】 (2024. 9. 5発信)</p> <p>花きグループでは9月2日から3週間、学生に就業体験の機会を提供しキャリア形成に役立ててもらうためにインターンシップの学生を1名受け入れています。職場でキクやスイートピーなど花きの圃場準備や定植、整枝作業、またバイオテクノロジーに関する実験など様々な経験をもらうことで、大分県職員の業務や、試験研究に対する理解を深めてもらいます。</p> <p>農業職のインターンシップ募集はコチラ (<a href="https://www.pref.oita.jp/soshiki/11200/pref-oita-internship.html">https://www.pref.oita.jp/soshiki/11200/pref-oita-internship.html</a>)</p>		花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2024.9.30
1735	花きグループ	<p>【専門技術研修（基礎花き）を実施しました。】 (2024. 8. 23発信)</p> <p>8月22日に県新任普及指導員を対象に花きの専門技術研修を実施しました。今回は花きに発生する病害虫の診断とその観察方法、特にアザミウマ類を中心に研修を行いました。また、キクの親株管理の講義と現地実習、さらに少量培地栽培技術とその花きに対する応用方法などの講義を行いました。今後も広域普及指導員と連携して各種研修を行います。</p>		花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2024.9.30
1730	花きグループ	<p>【旧盆用ホオズキの収穫が始まりました】 (2024. 8. 8発信)</p> <p>お盆の時期にかかせないホオズキですが、大分県は質・量ともに日本一の生産県です。花きグループでは、ビニルハウス、雨よけ栽培、露地栽培と条件を変えて、低コストで良質なホオズキを生産するための試験研究に取り組んでおり、今年4月に定植したホオズキの収穫が始まりました。また、平日には場内販売もっており、購入者からは大変良い評価を頂いていますので、購入希望の方はぜひお越しください。</p>		花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2024.8.31
1722	花きグループ	<p>【専門技術研修（基礎花き）を実施しました。】 (2024. 7. 26発信)</p> <p>7月18日、19日に県新任普及指導員と市職員、JA営農指導員を対象に、花きの専門技術研修を実施しました。今回は花き産業の現状と今後の展望、ヤマジノギクやホオズキなどの主要花きの栽培管理や生理生態、発生する病害虫の種類、防除対策等について講義や実習を交えて研修を行いました。今後も広域普及指導員と連携して各種研修を行い、現地指導員の資質向上を図ります。</p>		花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2024.8.31
1718	花きグループ	<p>【小学生の社会見学】 (2024. 7. 17発信)</p> <p>7月12日（金）に別府市立山の手小学校4年の児童86名が花きグループに社会見学として来訪しました。当日は温泉熱を利用したハウスや施設の概要、大分県で作られている代表的な草花、花きグループで行っている試験の内容などを説明しました。児童からは花に関しての質問がいくつか寄せられ、大変勉強になったようでした。</p>		花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2024.8.31
1712	花きグループ	<p>【ヤマジノギク系統選抜試験実施中】 (2024. 7. 9発信)</p> <p>花きグループでは県オリジナル花きであるヤマジノギクの系統選抜を実施しています。7月上旬から中旬にかけて約5,000本の苗を順次定植します。10月以降に開花していきますが、この中から開花状況や花色、切り花形質、特性などを調査し、優れた個体を次世代のヤマジノギクとして選抜していきます。</p>		花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2024.7.31

## 農林水産研究タイムリー情報

2025年3月31日時点

(合計159件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1704	花きグループ	<p>【花き栽培有望品目リアトリス】 (2024. 6. 13発信)</p> <p>花きグループでは遊休化したハウスの有効利用を図るため、様々な草花の試験を行っています。中でも無加温で栽培できる有望な品目としてリアトリスがあげられます。この花の季咲きは6月から7月で施設と露地でリレー栽培をすることが可能です。また、宿根草で数年に渡って採花することができ、かつ栽培が容易で切り花品質にも優れています。</p>		花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2024.6.30
1694	花きグループ	<p>【ヤマジノギクの現地試験を行っています】 (2024. 6. 3発信)</p> <p>県オリジナル花きであるヤマジノギクの季咲きは10月以降ですが、施設内にある設備を利用して開花時期を調節することができます。花きグループでは輪ギクの年間作付け体系にヤマジノギクを組み入れて新たな作付けを確認する試験に取り組んでいます。このたび現地での実証試験で、ヤマジノギクを輪ギクと同時に定植しても開花することが確認でき、課題解決を進めています。</p>		花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2024.6.30
1690	花きグループ	<p>【5月に収穫できるホオズキを作っています】 (2024. 5. 29発信)</p> <p>ホオズキという「お盆の花」というイメージが強く、需要もほぼその時期に限られます。花きグループでは、周年で収穫できるホオズキの栽培試験に取り組んでおり、今年度は無加温で5月に収穫する試験を行いました。5月収穫のホオズキは、実需者から「グリーンが鮮やかで面白い商材」との意見を頂いており、今後に期待しているところです。</p>		花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2024.6.30
1684	花きグループ	<p>【低コストで栽培できるトルコギキョウの定植を行いました】 (2024. 5. 16発信)</p> <p>トルコギキョウは施設栽培が一般的ですが、昨今パイプ等各種資材や重油等が高騰しており、経営を圧迫する要因となっています。このため花きグループでは露地や簡易施設を利用した低コスト栽培試験に取り組んでいます。このたび大分県オリジナル品種や市販品種など計15品種の作付けを行いました。今後は8月の収穫に向け生育調査を行います。</p>		花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2024.6.30
1678	花きグループ	<p>【シクラメンの鉢上げを行っています】 (2024. 4. 25発信)</p> <p>冬を彩る花といえば真っ先に思い浮かぶのがシクラメンです。現在、花きグループではセルトレイで育苗した苗をポットに移し替える作業を行っています。今年は定番の花色である赤やピンク、白に加え、芳香を放つものなど様々な種類のシクラメンを試験の一環で栽培しています。11月中旬から場内販売を行いますので、お気軽にお越しください。</p>		花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2024.5.31
1677	花きグループ	<p>【露地でも栽培できるホオズキの定植を始めました】 (2024. 4. 25発信)</p> <p>これまでの本県のホオズキ栽培はハウス栽培が中心でしたが、パイプ等各種資材が高騰しており、このことが新規栽培者の参入や既存農家規模拡大の妨げになっています。そのため、露地や低コストで導入できるミニハウスで生産可能なホオズキ栽培の技術開発に取り組んでいます。現在ホオズキの定植を行っており、今後は生育調査を行います。</p>		花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2024.5.31

農林水産研究タイムリー情報

2025年3月31日時点

(合計159件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
<b>⑤畜産研究部 (計14件)</b>						
1828	畜産研究部	<p>【令和6年度肉用牛改良研修会が開催されました】 (2025. 3. 21発信)</p> <p>2月19日に別府市で大分県肉用牛改良組合連合会と大分県家畜人工授精師協会の共催による肉用牛改良研修会が開催され、改良組合員及び関係者等110名が参加しました。「全国の肉用牛改良と種雄牛情勢について」や「最近の県有種雄牛の肥育成績について」、「ランピースキン病の対策と対応」についての講演が行われ、活発な意見交換が行われました。畜産研究部から「現場後代検定を踏まえた県有種雄牛の活用促進について」講演し、県有種雄牛の優れた特徴を紹介しました。</p>		畜産研究部 種雄牛チーム	0974-76-1317	2025.4.30
1827	畜産研究部	<p>【就農準備研修（畜産コース）閉講式が行われました】 (2025. 3. 21発信)</p> <p>3月4日に令和6年度就農準備研修閉講式が行われ、今年度の研修が終了しました。4月5日から3月4日までの11カ月間、畜産の知識や技術を実践的に学ぶとともに、家畜人工授精師免許などの各種資格取得や県外視察研修などを行いました。 就農する卒業生の今後の活躍にご期待ください！</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2025.4.30
1802	畜産研究部	<p>【家畜審査競技会（肉牛の部）大分県大会が開催されました】 (2025. 1. 14発信)</p> <p>大分県学校農業クラブ連盟が主催する、家畜審査競技会（肉牛の部）大分県大会が当研究部も協力し開催されました。久住高原農業高校と玖珠美山高校の生徒12名が参加し、肉用牛の成雌牛と子牛の体形審査を行い、その結果を競い合いました。 今回の経験を活かし、今後の畜産業に大きく貢献していただきたいと思っております。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2025.1.31
1800	畜産研究部	<p>【インターンシップを行いました】 (2024. 12. 24発信)</p> <p>大分県職員（畜産技術職）の仕事に興味がある大学生を対象にインターンシップを実施しました。 12月6日に畜産系大学生1名を受け入れ、研究部内を見学しながら業務概要等の説明を行いました。 インターンシップについては、大分県ホームページで募集しています。獣医師については随時、畜産技術職については来年度も定期的に募集しますので興味のある方はお申込みください。</p> <p>獣医師： <a href="https://www.pref.oita.jp/soshiki/15450/oita-jyuishi.html">https://www.pref.oita.jp/soshiki/15450/oita-jyuishi.html</a> 畜産技術職： <a href="https://www.pref.oita.jp/soshiki/11200/pref-oita-internship.html">https://www.pref.oita.jp/soshiki/11200/pref-oita-internship.html</a></p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2025.1.31
1768	畜産研究部	<p>【但馬系種雄牛「幸照茂」の現場後代検定が好成績】 (2024. 11. 7発信)</p> <p>但馬系種雄牛「幸照茂」の現場後代検定が終了しました。検定牛17頭中7頭が最高等級である『A5-12』となり、高いゲノム育種価どおり抜群の枝肉成績です！ さらに、ロス芯面積および歩留基準値は、去勢、雌ともに大分県歴代種雄牛99頭中1位！雌はBMS（脂肪交雑：サシ）も歴代1位の成績です！</p> <p>〔現場後代検定とは：候補種雄牛の子を肥育し、その肥育成績を基に遺伝的能力を判定する方法です〕</p>		畜産研究部 肉用牛改良肥育チーム	0974-76-1217	2024.11.30

## 農林水産研究タイムリー情報

2025年3月31日時点

(合計159件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1762	畜産研究部	<p>【若手普及指導員の研修を行いました】 (2024. 10. 11発信)</p> <p>今年度採用された県の畜産普及指導員4名を対象に肉用牛、酪農、飼料作物などに関する研修を行いました。広域普及指導員や畜産研究部の職員が講師となり、座学では大分県畜産業の現状や家畜の基礎について、実習では牛の扱い方、除角、搾乳などを学びました。研修を通じて学んだことを活かして、生産者の皆さんの役に立てるよう各地で普及活動に取り組んでいきます。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2024.10.31
1760	畜産研究部	<p>【九州・沖縄ブロックET研修会が開催（ET：受精卵移植）】 (2024. 10. 8発信)</p> <p>若手獣医師や受精卵移植師の採卵・移植技術のレベルアップを目的とした現場実習型技術研修が畜産研究部で開催されました（日本胚移植技術研究会主催）。県内はもとより九州・沖縄等から28名の参加があり、「実技実習が多く普段現場での疑問が解決できた」、「他地域の同業者と交流する貴重な機会となった」と大変好評でした。畜産研究部では引き続き、県内ET技術者の技術支援を行っていきます。</p>		畜産研究部 肉用牛繁殖・酪農チーム	0974-76-1270	2024.10.31
1753	畜産研究部	<p>【但馬系種雄牛「幸照茂」の現場後代検定が好成績で推移中】 (2024. 9. 25発信)</p> <p>但馬系種雄牛「幸照茂」の現場後代検定結果が16頭中12頭で判明しました。肥育成績は、去勢平均でBMS No. 10.0、ロース芯面積81.2cm<sup>2</sup>、歩留基準値76.6と優秀な成績を収めています。A5-12を既に5頭輩出しており、今後出荷される検定牛の成績も期待されます。ゲノム育種価は、歴代種雄牛99頭中、枝肉重量6位、ロース芯面積2位、歩留6位、脂肪交雑9位と高い値を有しています。</p> <p>〔現場後代検定とは：候補種雄牛の子を肥育し、その肥育成績を基に遺伝的能力を判定する方法です〕</p>		畜産研究部 肉用牛改良肥育チーム	0974-76-1217	2024.10.31
1752	畜産研究部	<p>【久住高原農業高等学校で削蹄を支援しました】 (2024. 9. 25発信)</p> <p>大分県立久住高原農業高等学校は、R7年1月に開催される第8回和牛甲子園に初めて出場します。これは、全国の高校生が和牛飼育の取組みを発表し枝肉成績を競う大会で、当研究部を含め関係機関で飼養管理技術の支援をしています。今回は高校生へ牛の保定や削蹄を指導しました。今後も支援を行うとともに大会での成績に期待しています。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2024.10.31
1751	畜産研究部	<p>【体験型子ども科学館0-Laboを実施しました】 (2024. 9. 25発信)</p> <p>大分県教育委員会が主催する0-Laboを「牛肉生産のHow To」というテーマで久住高原農業高等学校と当研究部で開催しました。小中学生とその家族26名が参加し、当研究部では種雄牛の視察や精子の顕微鏡観察をしました。興味深い・貴重な体験ができたという感想を多くいただき、将来の畜産従事者に繋がることを期待しています。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2024.10.31

農林水産研究タイムリー情報

2025年3月31日時点

(合計159件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1744	畜産研究部	<p>【インターンシップを行いました】 (2024. 9. 5発信)</p> <p>大分県職員（獣医師と畜産技術職）の仕事に興味がある大学生を対象にインターンシップを実施しました。8月20日に畜産系大学生1名、8月27日に獣医系大学生2名を受け入れ、研究部内を見学しながら業務内容について説明を行いました。 インターンシップについては、大分県ホームページで募集しています。獣医師については随時、技術職については募集期間がありますので興味のある方はお申し込みください。</p> <p>獣医師のインターンシップ募集はコチラ (<a href="https://www.pref.oita.jp/soshiki/15450/oita-jyuishi.html">https://www.pref.oita.jp/soshiki/15450/oita-jyuishi.html</a>) 畜産技術職のインターンシップ募集はコチラ (<a href="https://www.pref.oita.jp/soshiki/11200/pref-oita-internship.html">https://www.pref.oita.jp/soshiki/11200/pref-oita-internship.html</a>)</p>	 	畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2024.9.30
1689	畜産研究部	<p>【令和6年度前期試験交配種雄牛の紹介（試験交配期間：R6. 5. 15～7. 31）】 (2024. 5. 28発信)</p> <p>候補種雄牛である「秀保久」と「葵清国」の現場後代検定に向けた試験交配が5月15日から始まりしました。今後、試験交配で生まれた子牛の肥育調査（現場後代検定）が行われます。</p> <p>(1)「秀保久（ひでやすひさ）」（秋桜幸-福之姫-安福久） ・脂肪交雑のゲノム育種価は県内歴代2位 (2)「葵清国（あおいきよくに）」（葵白清-福之姫-美津照重） ・牛伝染性リンパ腫発症抵抗性遺伝子009:02を保有</p>	 	畜産研究部 肉用牛改良肥育チーム	0974-76-1217	2024.6.30
1688	畜産研究部	<p>【一番草の刈取を始めました】 (2024. 5. 28発信)</p> <p>畜産研究部には約56haの牧草地があり、牧草の試験研究や場内利用を行っています。 5月2日からオーチャードグラス主体草地の一番草の刈取りを始めました。収穫適期の出穂期に達しており、例年通りの生育で推移しています。5月中に一番草の乾草収納を終了し、二番草を7月、三番草を9月に刈取る予定です。</p>		畜産研究部 飼料・環境チーム	0974-76-1219	2024.6.30
1679	畜産研究部	<p>【就農準備研修（畜産コース）開講式が行われました】 (2024. 4. 25発信)</p> <p>4月5日に令和6年度就農準備研修開講式が行われました。今年度、県内での自営就農を希望する3名が3月4日までの11カ月間、畜産の知識や技術を学ぶとともに、家畜人工授精師免許などの各種資格・免許取得を目指し畜産研究部で研修を行います。 将来の畜産担い手として大いに期待されます。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2024.5.31

農林水産研究タイムリー情報

2025年3月31日時点

(合計159件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
<b>⑥林業研究部 (計24件)</b>						
1826	林業研究部	<p>【林業研究部年報第66号の発行】 (2025. 3. 21発信)</p> <p>令和5年度の試験研究成果について取りまとめた「林業研究部年報第66号」を発行しました。 大分県農林水産研究指導センター林業研究部のページに掲載していますのでご覧ください。 <a href="https://www.pref.oita.jp/soshiki/15088/nenpou2.html">https://www.pref.oita.jp/soshiki/15088/nenpou2.html</a></p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2025.4.30
1823	林業研究部	<p>【フォーバイ材の強度試験】 (2025. 3. 13発信)</p> <p>林業研究部木材チームでは、スギ大径材の利活用を検討するため、ツーバイ材からフォーバイ材の規格製材品の強度試験（曲げ強さ、引っ張り強さ等）を進めています。 現在はフォーバイ材（4×4～4×8）の曲げ強度試験を進めています。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2025.3.31
1822	林業研究部	<p>【ヒノキ・マツ剪定技術検討会】 (2025. 3. 13発信)</p> <p>林業研究部では、スギやヒノキ、クロマツの採穂園を造成・管理しており、この採穂園の適正な維持を行うため、2月19日に九州育種場の研究員を招いて、ヒノキ・マツの剪定や断幹の技術検討会を開催しました。 当部の若手研究員にとっては、格好の技術習得の機会となりました。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2025.3.31
1821	林業研究部	<p>【ひた森の担い手づくり協議会視察来訪】 (2025. 3. 13発信)</p> <p>3月1日にひた森の担い手づくり協議会の主催で、日田の林業の担い手を育成する「ひた森勉強会」が開催され、19名が林業研究部に来訪されました。 勉強会では、スギやヒノキに替わる早生樹や大径材利用など林業研究部が行っている取り組みについて紹介しました。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2025.3.31
1809	林業研究部	<p>【林業研究部研究発表会】 (2025. 2. 10発信)</p> <p>令和6年度の林業研究部研究発表会を1月30日に開催しました。50名を超える参加者を迎え、当研究部の研究成果について発表するとともに広域普及指導員並びに豊肥振興局から情報提供を行いました。 研究発表課題は以下のとおりです。 (1)「スギ心去り構造用製材等の品質に関する研究」 （木材チーム 古曳 首席主幹研究員） (2)「疎植造林による育林施業体系に関する研究」 （森林チーム 松本 主任研究員）</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2025.2.28
1808	林業研究部	<p>【早生樹関連の視察来訪】 (2025. 2. 10発信)</p> <p>林業研究部の早生樹の取り組みに対して視察申し込みが増えています。1月は高知県議会11名による造林放棄地対策に関する視察と、竹田直入林研グループ連絡会11名による早生樹造林への取り組みに関する視察が行われました。また、2月は広島県内の森林組合も視察来訪される予定です。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2025.2.28



農林水産研究タイムリー情報

2025年3月31日時点

(合計159件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1807	林業研究部	<p>【コウヨウザンの萌芽試験】 (2025. 2. 10発信)</p> <p>林業研究部では、スギやヒノキに替わる早生樹の検討としてコウヨウザンに関する調査を実施しています。今回、萌芽状況及びその後の育林施業方法について検討するため、佐伯市で昨年11月にコウヨウザンを伐採した跡地に試験地を設定しました。シカやウサギの被害を避け、適正な育成方法について検討を進めていきます。</p>	 シカネット設置中  2日間で完成	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2025.2.28
1795	林業研究部	<p>【早生樹コウヨウザンの取り組み】 (2024. 12. 18発信)</p> <p>林業研究部では循環型林業の確立を目指し、新たな早生樹種としてコウヨウザンについて研究を行っています。この度、佐伯市直川の国有林からコウヨウザンを提供していただき、材質特性（樹幹内の水分や強度分布）や丸太の縦振動ヤング係数（材料の強度を表す指標の一つ）の測定等を行いました。今後、植栽樹種の選択肢の一つとして結果の普及と新たな早生樹種の検討を進めていきたいと考えています。</p>	 材質調査用試験材  丸太の非破壊強度試験	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2025.1.31
1794	林業研究部	<p>【日田の木と暮らしのフェア】 (2024. 12. 18発信)</p> <p>令和6年12月1日(日)に、日田市のパトリア日田において開催された「日田の木と暮らしのフェア」に出展し、試験研究成果を紹介するとともに、小学生を対象に試験端材を使用した鉛筆立て作り教室を行いました。木材を接着剤で貼り合わせて作る鉛筆立てに四苦八苦していましたが、40名をこえる参加をいただきました。</p>	 花粉症対策研究成果の公表  小学生対象木工教室	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2025.1.31
1793	林業研究部	<p>【スギプロモート林調査】 (2024. 12. 18発信)</p> <p>県では今年3月に新たなスギ造林推奨品種を8品種選定しました。これまでの研究から成長が早く形状に優れた品種を選抜してきましたが、この中から「花粉の少ない」品種を選んだものです。県民の方々に見ただけのよう、県下18箇所はこの品種を主体とした「プロモート林＝展示林」を設定しており、研究部では、この成長状況調査等を進めています。</p>	 日田市のプロモート林  成長量調査の様子	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2025.1.31
1792	林業研究部	<p>【スギ雄花着花状況調査】 (2024. 12. 18発信)</p> <p>林業研究部では、花粉症対策の一環としてスギの「雄花着花状況調査」を行っています。これは、県下におけるスギ花粉の発生状況を予測するために行うもので、今年度から調査箇所を20箇所から30箇所を増やして調査を行ないました。今回の調査の結果から、来春のスギ花粉の発生量は「例年並みか、少し多め」であるとの予測がされました。</p>	 研究員による観察  スギの雄花着花状況	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2025.1.31
1790	林業研究部	<p>【第3回研究支援功労賞受賞】 (2024. 12. 18発信)</p> <p>当研究部の金古美輝夫業務技師が全国林業試験研究機関協議会から、第3回研究支援功労賞を受賞しました。これは、氏が23年間、林業研究部において試験研究の効率的遂行に対し、技術・経験・知識を活かし、研究員に対して補助、支援に努めたことが認められたものです。</p>	 受賞した金古美輝夫業務技師	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2025.1.31

農林水産研究タイムリー情報

2025年3月31日時点

(合計159件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1773	林業研究部	<p>【県産スギ大径材の利活用に関する研究】 (2024. 11. 13発信)</p> <p>林業研究部では、近年増加しているスギ大径材の有効な利活用に関する研究を進めており、利用途の一つとして建築用材としてのフォーバイ材等の強度性能評価を行っています。</p> <p>現在は、佐伯地域の大径材について、当研究部で製材し、各種測定を行った後、曲げや引っ張り等の強度試験を行うため、試験体の準備を進めています。</p>	 	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2024.11.30
1772	林業研究部	<p>【スギ品種のDNA分析】 (2024. 11. 13発信)</p> <p>現在、国や県は花粉症対策として、花粉の少ないスギ品種の選抜に関する取組みを行っています。</p> <p>そのため、林業研究部ではスギの無花粉品種を選抜するため、花粉の遺伝子を増幅し、電気泳動で無花粉であるかどうかの鑑定を行っています。</p> <p>この取組みが、将来の大分県の森林において、花粉の少ないスギの植林が増えていくことが期待されます。</p>	 	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2024.11.30
1771	林業研究部	<p>【九州森林学会優秀論文賞の受賞】 (2024. 11. 13発信)</p> <p>第80回九州森林学会大分大会において、当研究部森林チームの松本純主任研究員が九州森林学会優秀論文賞を受賞しました。</p> <p>これは、昨年度の発表した課題「大分県におけるスギさし木品種の変遷と地理的分布」で、大分県下288林分のスギの品種を鑑定し、県内のスギ植林における品種の変遷をまとめたことが評価されたものです。</p> <p>この研究の成果は、今後のスギ植林において、適地・適木等の大きな指標となります。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2024.11.30
1770	林業研究部	<p>【第80回九州森林学会大分大会の開催】 (2024. 11. 13発信)</p> <p>令和6年10月11日～12日に第80回九州森林学会が、九州各地の国、県、大学、企業等から約200名が参加のもと、大分市内で開催しました。</p> <p>2日目に行われた研究発表会では、9会場で計100課題の研究発表が行われました。大分県からは、林業研究部ときのごグループの研究員6名が発表を行いました。</p>	 	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2024.11.30
1769	林業研究部	<p>【日田林工生のインターンシップ】 (2024. 11. 13発信)</p> <p>県内で唯一、林業科のある日田林工高校から、2年生1名がインターンシップに訪れました。</p> <p>実習として、コウヨウザンの苗木生産に関する試験の準備として、さし木に挑戦しました。</p> <p>彼は、大分県職員を希望しているとのことで、将来の研究員として数年後、一緒に仕事ができることを期待しています。</p>	 	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2024.11.30
1742	林業研究部	<p>【松くい虫対策の取組み】 (2024. 9. 2発信)</p> <p>県内では松くい虫被害によりマツ林が減少しています。その対策として、マツを植栽する場合は、「松くい虫」と呼ばれる「線虫」に抵抗性のあるクロマツを使用することが一般的です。</p> <p>その苗木の生産には「線虫」を使用して、苗を選抜するのですが、林業研究部では毎年、大分県樹苗生産農業協同組合の依頼でこの「線虫」の抽出作業を行い、提供しています。</p>	 	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2024.9.30

農林水産研究タイムリー情報

2025年3月31日時点


(合計159件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1726	林業研究部	<p>【コウヨウザンの系統別初期成長比較試験の実施】 (2024. 7. 26発信)</p> <p>県では、循環型林業の確立を進める上でコウヨウザン等の早生樹の取組みを進めています。この度、森林総合研究所林木育種センター九州育種場との共同研究として、林業研究部内及び杵築市山香町に、成長比較試験林を設定しました。 これは、コウヨウザンの優良系統選別のために初期成長等を比較することを目的とした試験地です。</p>	 <p>林業研究部内の試験地</p> <p>雑草の除去</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2024.8.31
1725	林業研究部	<p>【林業職員実践研修会の開催】 (2024. 7. 26発信)</p> <p>7月10日に、県採用後4年目を迎える林業職員及び新任林業普及指導員、市職員等14名を対象に、試験研究機関における実践研修会を開催しました。 研修会では、林業研究部での試験研究の取組みについて講義と実習を行いました。参加者には、試験研究の先端技術について学ぶとともに、今後の現場においてこの経験を活かしていただきたいと思っております。</p>	 <p>研究員の取組みの講義</p>  <p>さし木苗の取扱い実習</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2024.8.31
1724	林業研究部	<p>【省力・低コスト造林技術の普及に向けたシンポジウム】 (2024. 7. 26発信)</p> <p>7月4日に日本森林技術協会主催「省力・低コスト造林技術の普及に向けたシンポジウム」が大阪市で開催され、森林チームの松本主任研究員がパネリストとして出席しました。 松本主任研究員は、「省力・低コスト造林技術の普及に向けた調査委託事業」の検討委員であることから、今後も各種取組みに協力していく予定です。</p>	 <p>シンポジウムの様子</p>  <p>パネリストの松本主任研究員</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2024.8.31
1715	林業研究部	<p>【九重町議会視察来訪】 (2024. 7. 11発信)</p> <p>6月21日に九重町議会外21名が視察来訪されました。林業研究部に初めてお越しの方が多く、試験研究の内容や場内施設を興味深く視察されていました。 視察において、県の林業施策や林業研究部の取組みについて説明すると、早生樹や大径材など九重町に関連した質問を矢継ぎ早にいただくなど、内容の濃い視察となりました。</p>	 <p>林業研究部の取組み説明</p>  <p>苗木試験場の視察</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2024.7.31
1701	林業研究部	<p>【早生樹造林の情報交換】 (2024. 6. 12発信)</p> <p>林業研究部森林チームでは、循環型林業の確立に向けたスギやコウヨウザンなどの成長の早い早生樹の研究に取り組んでいます。 今回、豊肥地域で早生樹造林に取り組んでいる企業が、研究部の試験研究の取組みの視察を兼ねて来訪され、早生樹造林の情報交換を行いました。(4/26、5/29) 今後も試験研究及び情報収集に努め、早生樹造林の取組みを加速化させていきます。</p>	 <p>コウヨウザンの成長比較</p>  <p>苗木生産方法の検討</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2024.6.30

## 農林水産研究タイムリー情報

2025年3月31日時点

(合計159件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1693	林業研究部	<p>【木材乾燥試験の実施】 (2024. 6. 3発信)</p> <p>林業研究部木材チームでは、2台の木材乾燥機がフル稼働しています。 県産スギ大径材を活用するために、製材・乾燥における材の曲がり抑制技術の開発と、従来の蒸気式乾燥だけでなく減圧乾燥や高周波乾燥を組み合わせることで、効率的に高品質な乾燥材を生産する技術について取り組んでいます。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2024.6.30

## 農林水産研究タイムリー情報

2025年3月31日時点

(合計159件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
<b>⑦きのこグループ (計7件)</b>						
1811	きのこグループ	<p>【試験研究用原木搬入】 (2025. 2. 10発信)</p> <p>原木シイタケの栽培試験に使用するクヌギ原木3,000本が搬入されました。 2月中旬から駒打ち作業を行い、原木シイタケの安定生産技術の研究等に使用していきます。</p>		きのこグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2025.2.28
1810	きのこグループ	<p>【きのこグループ研究状況報告会】 (2025. 2. 10発信)</p> <p>令和6年度きのこグループ研究状況報告会を1月23日に開催しました。源兵衛塾塾生や自主研グループを迎え、現在実施中の試験課題について情報提供を行いました。課題は以下のとおりです。</p> <p>(1)「原木の伐採・玉切り時期の検討」 (2)「少雨に対応した散水管理技術の検討」 (3)「乾シイタケの発生と気象要因の解析について」</p> <p>参加者から活発な意見をいただきました。</p>		きのこグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2025.2.28
1783	きのこグループ	<p>【林業全般基礎研修(2)】 (2024. 12. 6発信)</p> <p>県に採用されて4年目の林業職員と市町村林業担当職員等を対象とした研修会がきのこグループで開催されました。今回は座学と菌床ブロック製造の研修を行い、午後からは菌床シイタケの一貫生産者の視察を行いました。</p>		きのこグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2024.12.31
1782	きのこグループ	<p>【原木の含水率調査】 (2024. 12. 6発信)</p> <p>シイタケ原木の伐採・玉切り時期が、シイタケ生産に与える影響を調査するため、11月に伐採・玉切りを行った原木を心材部と辺材部に分け、含水率を計測しました。1月と2月に伐採・玉切りする原木も同様の調査を行い、比較します。</p> <p>注) 玉切り：管理しやすいよう約1mに切断すること。</p>		きのこグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2024.12.31
1738	きのこグループ	<p>【新任普及員研修】 (2024. 8. 27発信)</p> <p>新任の県普及指導員と県・市の特用林産担当者を対象に新任普及員研修会を開催しました。午前中にシイタケ栽培についての座学を行い、午後からは、今年の春に接種したほだ木の活着・伸長調査を行いました。</p>		きのこグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2024.9.30
1737	きのこグループ	<p>【菌床シイタケ栽培試験】 (2024. 8. 27発信)</p> <p>菌床シイタケ栽培に使用する原材料が高騰しており、低コスト化を目指して、培地に使用する栄養体(米ヌカやフスマ(麦の糠)等)の代替資材と混合割合等を検討しています。現在、試験管に代替資材を混合した培地を詰め、シイタケ菌糸を接種しました。今後、試験管内のシイタケ菌糸伸長を調査します。</p>		きのこグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2024.9.30
1700	きのこグループ	<p>【乾シイタケ判定会の開催】 (2024. 6. 12発信)</p> <p>きのこグループでは、乾シイタケの新品種育成に取り組んでいます。6月3日に昨年の秋から春にかけて発生したシイタケの判定会を開催し、一次、二次選抜中のシイタケの発生量、形状、発生時期等を確認しました。今後、種菌メーカーと連携して、品種の選抜を行います。</p>		きのこグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2024.6.30

農林水産研究タイムリー情報

2025年3月31日時点

(合計159件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
<b>⑧水産研究部 (計22件)</b>						
1829	水産研究部	<p>【ヒラメの採卵を実施しました!】 (2025. 3. 24発信)</p> <p>当研究部では、病気に強く成長が早いヒラメの育種を進めています。3月12日にヒラメの採卵を開始し、親の組合せを変えた4パターンの種苗生産を実施しました。3月下旬にも、別の親の組合せで種苗生産を行い、前述の種苗とともに、成長・耐病性を確認し、優良な親の組合せを調査する予定です。</p>	 <p>ヒラメの採卵の様子</p>	水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2025.4.30
1812	水産研究部	<p>【大分県水産関係研究者連絡協議会研究発表会を開催しました】 (2025. 2. 12発信)</p> <p>当部では水産関係職員(水産研究部等研究員、漁業公社職員、県振興局水産普及指導員)の相互理解と資質向上を図るため、昭和45年から研究発表会を毎年行っています。今年度は1月31日に大分市で開催し、合計13課題の研究発表がなされ、熱心な質疑や討論が行われました。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2025.2.28
1805	水産研究部	<p>【10月採卵ブリ種苗 現地養殖試験開始】 (2025. 2. 4発信)</p> <p>当研究部では4~6月の出荷端境期(養殖ブリ出荷量減少期)の解消に向けて、8月採卵ブリの種苗生産と現地試験を行っています(タイムリー情報No1732(2024年8月8日 発信)参照)。これとは別に昨年10月採卵ブリ種苗約1万3千尾を、1月16日に佐伯市蒲江の養殖場へ試験出荷しました。8月採卵よりも2か月遅い10月に採卵したブリでも出荷端境期に高品質なブリとなるか、養殖業者と共に調査していきます。</p>	 	水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2025.2.28
1796	水産研究部	<p>【水産研究部で漁業学校を開催しました!】 (2024. 12. 20発信)</p> <p>漁業後継者育成のため、県漁協は県と連携して新規漁業者を対象とした漁業学校を開校しています。12月12日に魚類養殖業を志す研修生を対象に、大分県水産養殖協議会の福田氏と水産研究部の研究員が講師となり、養殖基礎技術の講義と陸上養殖の閉鎖循環システムの紹介を行いました。研修生にとって将来自身が行う養殖業に直結する内容であり、熱心に聞き入っていました。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2025.1.31
1787	水産研究部	<p>【かぼすブリの出荷前検査を行いました!】 (2024. 12. 10発信)</p> <p>正月用の養殖ブリの出荷がまもなく始まります。当研究部では年末に出荷する「かぼすブリ」の品質が基準を満たしているかどうか調べるため、出荷前検査を実施しています。品質をチェックすることで、味よし・香りよし・見た目よしの「かぼすブリ」を養殖業者は安心して出荷できます。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2024.12.31
1785	水産研究部	<p>【キジハタの種苗放流を行いました!】 (2024. 12. 6発信)</p> <p>11月28日に津久見市内の港で、放流魚と分かるための標識として左右片方の腹びれを抜去したキジハタ(平均全長約9cm)それぞれ2,200尾ずつを、港内と港外の岩礁帯に放流しました。今後「港内」と「港外」での定着状況や摂餌状況を調査し、どちらが放流場所に適しているか検討します。</p>	 <p>左腹びれ抜去 右腹びれ抜去</p>	水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2024.12.31

農林水産研究タイムリー情報

2025年3月31日時点

(合計159件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1780	水産研究部	<p>【キジハタ標識放流調査を実施します！】 (2024. 12. 3発信)</p> <p>11月26日に県漁協津久見支店が従来から放流を実施している津久見湾湾奥で、平均全長13.6cmのキジハタ168尾を当部が放流しました。 企業の船着場が近く、船舶の往来も激しいことから、放流後の追跡調査が難しい状況であったため、ダートタグ（写真の黄色の物）を装着することにより、放流後の移動生態などの把握精度が高まることが期待されます。</p>	 	水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2024.12.31
1764	水産研究部	<p>【大学生のインターンシップを受入れました！】 (2024. 10. 15発信)</p> <p>9月20日、水産系学部の大学生5名がインターンシップの一環で水産研究部を訪れました。研究施設や漁業調査船「豊洋」の見学に加え、赤潮調査、資源解析、種苗生産などの実務も体験してもらいました。 このインターンシップを通じて、将来の進路として大分県の水産職に興味を持っていただければ幸いです。</p>	 	水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2024.11.30
1763	水産研究部	<p>【大規模拠点放流の効果を確認するためイサキ種苗の標識付けを実施しました！】 (2024. 10. 15発信)</p> <p>当研究部では漁業公社と連携し、9月末に4万尾のイサキの稚魚（全長約7.5cm）に標識付け（放流魚と判別できるように腹びれ抜去）を行いました。今後、増殖礁の整備と資源管理を強化した海域に大規模拠点放流を行った後、市場調査等追跡調査を実施して効果を分析します。 今回の取組を通じ、種苗放流・資源管理・環境整備を一体的に行うことにより効率的な資源増加に繋がるか検証します。</p>	 	水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2024.11.30
1754	水産研究部	<p>【水産研究部で漁業学校開催される！】 (2024. 9. 27発信)</p> <p>大分県では漁業後継者育成のため、県漁協と連携して新規漁業者を対象とした漁業学校を開校しています。 今回は魚類養殖業を志す研修生を対象に、水産研究部の研究員が講師となり、ヒラメを主体とした種苗生産技術の講義と施設見学を行いました。研修生は夏場の溶存酸素の減少要因や種苗生産が安定するサイズや時期など積極的に質問し、活発に意見を交わしていました。</p>	 	水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2024.10.31
1740	水産研究部	<p>【水産研究部で漁業学校開催される！】 (2024. 8. 30発信)</p> <p>大分県では漁業後継者育成のため、県漁協と連携して新規漁業者を対象とした漁業学校を開校しています。今回は魚類養殖業を志す研修生を対象に、水産研究部の研究員が講師となり、魚病学と魚病診断技術について講義を行いました。座学だけでなく、養殖場で死亡あるいは衰弱した養殖魚を持ち込み、実習も行いました。魚体の外観症状や開腹しての内臓診断では、研修生は熱心に耳を傾け、活発な意見を交わしていました。</p>	 	水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2024.9.30
1732	水産研究部	<p>【ブリの8月採卵を実施しました】 (2024. 8. 8発信)</p> <p>県では、天然ブリの産卵期より半年遅い8月に採卵し生産した人工種苗を活用して、養殖ブリの出荷量が減少する産卵期（4～6月）を解消する取組を実施しています。 当部の陸上水槽で昨年12月から日長や水温を調節して親魚を仕立て、8月1日に約100万粒の採卵に成功しました。ふ化した種苗は大分県漁業公社で育成後、来春には県下のブリ養殖業者に引き渡される見込みです。</p>	 	水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2024.8.31

農林水産研究タイムリー情報

2025年3月31日時点

(合計159件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1721	水産研究部	<p>【ヒラメ種苗の現地養殖試験を開始しました！】 (2024. 7. 25発信)</p> <p>現在、当研究部では耐病性や成長に優れたヒラメの育種に取り組んでいます。7月12日、今後の選抜育種の基礎となる系統のヒラメ種苗（全長約10cm）6,000尾を佐伯市の養殖業者へ出荷しました。今後は、現地で養殖生産を行いながら、種苗の耐病性や成長について調査します。</p>		水産研究部 資源増殖チーム	0972-32-2155	2024.8.31
1720	水産研究部	<p>【ワクチン講習会を実施しました！】 (2024. 7. 25発信)</p> <p>6月21日に養殖業者を対象とした魚類へのワクチン講習会を開催しました。座学と実技を行い、正しいワクチン接種の方法について説明しました。ワクチン接種によって、現場での魚病被害が減少することを期待しています。 なお、ワクチン接種の有無にかかわらず、養殖魚の食品としての安全性は確認されています。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2024.8.31
1719	水産研究部	<p>【魚類養殖講習会を開催しました！】 (2024. 7. 25発信)</p> <p>7月16日に大分県水産養殖協議会との共催で「令和6年度魚類養殖講習会」を開催しました。今回、近畿大学水産研究所 白樫正准教授を招き、「海産魚類養殖の寄生虫対策」をテーマに講演を行いました。講習会には協議会会員ほか74名が参加し、活発な意見交換が行われました。当研究部では今後とも水産養殖協議会と協力し、養殖業者に有益な講習会を実施します。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2024.8.31
1716	水産研究部	<p>【トラフグの放流効果を調査しています！】 (2024. 7. 16発信)</p> <p>本県では瀬戸内・九州の関係府県と共同でトラフグの栽培漁業に取り組んでいます。 放流効果を調べるため、7月2日に漁業公社と連携して全長81.5mm、3千尾のトラフグに対し、放流魚と判別できるように右胸びれをカットし、鶴見三栗島周辺に放流しました。 県下8地区の市場で追跡調査を行っていますが、右胸びれのないトラフグを捕獲した時には、水産研究部までご連絡をお願いします。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2024.8.31
1700	水産研究部	<p>【スマート技術を活用したヒラメの養殖試験施設を整備しました！】 (2024. 6. 12発信)</p> <p>当研究部では持続可能なヒラメ養殖の確立に向け、スマート化された養殖試験施設を整備しました。本施設では給餌作業の省力化を図るための自動給餌システムや、赤潮発生時のリアルタイム監視と即時対応を可能にする、遠隔操作システムの開発を行います。今後は生産者の意見も取り入れ、現場に役立つシステム構築を目指します。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2024.6.30
1695	水産研究部	<p>【魚病及び赤潮担当者会議を実施しました！】 (2024. 6. 4発信)</p> <p>5月29日に当研究部で、市町村、漁協職員を対象とした「魚病及び赤潮担当者会議」を実施しました。赤潮については、過去の発生状況、今年度の発生予測、漁業被害が発生した際の対応などについて説明しました。魚病については、令和5年度の発生状況の報告、新たな疾病に関する情報提供等を行いました。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2024.6.30
1692	水産研究部	<p>【ドローンによる赤潮監視を行います！】 (2024. 5. 30発信)</p> <p>当研究部では、今年度赤潮被害を防止するため、ドローンを活用した赤潮監視技術の開発に取り組んでいます。本技術の確立により、今後、赤潮発生時に速やかに空撮を行うことで、海面の色による赤潮種類の推定、発生場所の特定、発生域の拡大及び流向監視などの効率的・効果的な赤潮監視が期待されます。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2024.6.30



## 農林水産研究タイムリー情報

2025年3月31日時点

(合計159件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1691	水産研究部	<p>【貝類養殖による漁場環境の改善に取り組みます！】 (2024. 5. 30発信)</p> <p>植物プランクトンを食べて成長する二枚貝類の養殖を実施することで、魚類養殖による栄養負荷を陸上に回収し、富栄養化した湾内の漁場環境の改善を図ります。 山口県栽培漁業センターから平均殻長6mmのアサリ6万個を受入れ、水産研究部の海上筏で中間育成した後、11月から蒲江猪串湾で養殖試験を実施する予定です。</p>	 <p>アサリ稚貝 中間育成</p>	水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2024.6.30
1683	水産研究部	<p>【養殖関連事業説明会を開催しました】 (2024. 5. 10発信)</p> <p>4月23、25日に陸上養殖（主にヒラメ、トラフグ）業者を対象に当部の関連事業の説明会を佐伯市で開催しました。 近年の養殖魚の病気の発生動向や、IoTを活用した自動給餌機能や水槽監視システムの開発状況の説明のほか、ヒラメの食中毒の原因となる寄生虫クドア・セブテンブクタータの検査に関する注意点を周知しました。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2024.5.31
1673	水産研究部	<p>【流れ藻分布及びモジャコ（ブリ稚魚）の付着状況調査を実施中！】 (2024. 4. 15発信)</p> <p>ブリの養殖用種苗として稚魚を採捕する今年度の「モジャコ漁」が4月1日に大分県海域で解禁されました。当研究部では、3月中旬から5月上旬まで6回程度、調査船「豊洋」で海面に漂う流れ藻を採取し、流れ藻に集まるモジャコ等の付着状況を調べ、結果を速やかに県内のモジャコ漁業関係者に提供しています。</p>		水産研究部 資源増殖チーム	0972-32-2155	2024.5.31

農林水産研究タイムリー情報

2025年3月31日時点

(合計159件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
<p>⑨北部水産グループ (計18件)</p>						
1819	北部水産グループ	<p>【アユの遡上調査が始まりました】 (2025. 3. 6発信)</p> <p>立春を過ぎ、アユが再び川に上る時期となりました。当グループでは、毎年大野川で遡上時期や遡上サイズを調べており、今年もアユを捕獲するための定置網を仕掛けました。今後、漁協と連携してアユの遡上実態を調べ、天然遡上の状況を把握します。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2025.3.31
1818	北部水産グループ	<p>【クロメの繁る海を目指して】 (2025. 3. 6発信)</p> <p>海洋環境の変化に伴い、各地で「磯焼け」と呼ばれる海藻群落の消失・減少が聞かれます。姫島周辺でもクロメの減少が確認されており、漁業者が海藻を保全する取り組みを行っています。 当グループでは構造物に取り付けやすくするために木片に付着させた人工種苗を試験的に作成し、提供しました。これらの種苗が育ち、海藻が増えるよう漁業者とともに経過を観察します。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2025.3.31
1789	北部水産グループ	<p>【内水面魚病講習会を開催しました】 (2024. 12. 13発信)</p> <p>県内でアユやエノハなどを養殖している内水面養殖漁業者等約30名を対象に別府市内で講習会を開催しました。魚病の発生状況や近年の傾向、トビックなどを報告しました。 参加者は熱心に聴講するとともに、互いに情報交換も行うなど、貴重な機会になりました。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2024.12.31
1786	北部水産グループ	<p>【漁業学校の講義を行いました】 (2024. 12. 9発信)</p> <p>漁業後継者育成のため、県漁協は県と連携し、新規就業者が漁業に関する知識や技能を習得する漁業学校を開校しています。その一環として、漁船漁業を志す研修生2名に、当グループでは3回目となる講義を行いました。 藻類担当研究員から「海藻生態学」の講義と建材ブロックを使った藻類増殖手法の実習を、栽培漁業担当研究員から「栽培漁業」の講義を行い、研修生は熱心に取り組んでいました。</p>		北部水産グループ 資源増殖チーム 養殖環境チーム	0978-22-2405	2024.12.31
1781	北部水産グループ	<p>【耐病性クルマエビを試験出荷】 (2024. 12. 3発信)</p> <p>当グループで飼育していた病気に強いクルマエビ(国の研究機関が中心となって作出した系統: タイムリー情報 No1743参照)が一定の大きさまで成長したので、親エビとして県内養殖業者に試験出荷しました。 今後、これらのエビから種苗をつくり、来年の生産が行われます。当グループでは今後も効果を検証していく予定です。  ※生研支援センターイノベーション創出強化研究推進事業「クルマエビの耐病性品種の育成と管理に関する技術開発」により実施(国、大分県、大学他)。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2024.12.31
1774	北部水産グループ	<p>【アユ産卵場調査を実施中】 (2024. 11. 13発信)</p> <p>アユが産卵する時期になりました。卵を産み終わるとアユは約1年の生涯を終えます。来年春の稚アユの遡上数が多いか少ないかはさまざまな要因が影響しますが、まずは産着卵数が多いことが重要です。当グループでは毎年この時期に県内の主要な河川でアユの資源管理に資するために産卵場の調査を行っています。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2024.11.30

農林水産研究タイムリー情報

2025年3月31日時点

(合計159件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1767	北部水産グループ	<p>【豊前海アサリの資源動向モニタリングを実施しました】 (2024. 10. 22発信)</p> <p>回復が望まれる豊前海のアサリ資源について、本年秋期の現存量を把握するため、中津市～豊後高田市の10地区の干潟で10月の大潮干潮時に坪刈りによる調査を行いました。20cm四方の枠内の砂を2mm目合いのふるいにかけて、残ったサンプル内のアサリを計数、測定し、資源量を推定します。</p>		北部水産グループ 資源増殖チーム	0978-22-2405	2024.11.30
1761	北部水産グループ	<p>【漁業学校の講義を行いました】 (2024. 10. 9発信)</p> <p>漁業後継者育成のため、県では県漁協と連携して、新規漁業者が漁業に関する知識や技能を習得する漁業学校を開校しています。 その一環として、漁船漁業を志す研修生2名に、資源調査に関する講義とハモの精密測定の実習を当グループの資源研究担当者が行いました。実習では、ハモの年齢を推測するため、慣れないと難しい耳石の摘出も行ってもらいました。</p>		北部水産グループ 資源増殖チーム	0978-22-2405	2024.10.31
1759	北部水産グループ	<p>【貝毒被害を防止するためにマガキの検査を実施】 (2024. 10. 8発信)</p> <p>海水温が低下してきて、マガキの出荷が近づいてきました。本県瀬戸内海域には、養殖マガキの産地（中津、国東、杵築、日出）が多数あります。安全・安心なマガキを出荷するために当グループでは、養殖場の貝毒原因プランクトン調査やマガキの安全性を判別する検査を行っています。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2024.10.31
1746	北部水産グループ	<p>【ノリ養殖に向けた水質観測時期となりました】 (2024. 9. 6発信)</p> <p>例年10月頃に始まるノリ養殖では、種付け時期などを判断するため海水温などの水質情報が重要です。当グループでは30年以上にわたり高田港導流堤地先の水温や比重などを9月から3月の間、ほぼ毎日観測して生産者等に情報提供しています。 今年もおいしい県産ノリが生産されることを期待しています。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2024.9.30
1743	北部水産グループ	<p>【耐病性クルマエビを飼育中】 (2024. 9. 4発信)</p> <p>クルマエビ養殖では、しばしば病気が発生し、時には数年にわたり被害を受けることがあります。これを打開するため、国の研究機関が中心となって病気に強いエビの系統を作出しました。 当グループで稚エビから親エビ候補となるまで養成し、10月以降、県内の養殖場で親エビとして採卵に用い現地実証する予定です。</p> <p>※生研支援センターイノベーション創出強化研究推進事業「クルマエビの耐病性品種の育成と管理に関する技術開発」により実施（国、大分県、大学他）。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2024.9.30
1729	北部水産グループ	<p>【青少年のための科学の祭典 in 宇佐市に参加しました】 (2024. 8. 7発信)</p> <p>8月3日に、子供たちが科学に対する興味を持ってもらうイベントが宇佐市教育委員会主催で開催されました。当グループも出展し、宇佐市で養殖されているスッポンやドジョウを展示したところ、子どもたちは興味深そうにのぞきこんだり触ったりしていました。これをきっかけに地元の水産業に興味を持ってもらえたらうれしいです。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2024.8.31

農林水産研究タイムリー情報

2025年3月31日時点

(合計159件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1728	北部水産グループ	<p>【漁業学校の講義を行いました】 (2024. 8. 7発信)</p> <p>新しく漁業に従事する方の知見を深めるため、県では漁業に関する知識や技能の習得を支援する漁業学校を開催しています。その一環として、8月1日に赤潮に関する講義と簡易採水器の作成が当グループで行われました。 赤潮研究の担当者が2名の受講者に対して講義した後、当グループの30トン水槽で受講者が自作した採水器を使って任意の水深から採水し、水質を測定する方法などを学びました。</p>	 	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2024.8.31
1723	北部水産グループ	<p>【ヒジキ人工種苗を冲出しました】 (2024. 7. 26発信)</p> <p>春先から初夏にかけてヒジキの種苗生産を行っており、採苗したヒジキはコンクリートブロックに付着させて育苗しています。 今後は飼育室内や天然海域でヒジキの成長に適した条件を探っていきますが、今回はその一端として、地元漁業者の協力を得て、天然ヒジキの生育がみられる国東市の沿岸部にブロックを設置しました。水温等記録するセンサーも設置し、今後は生長等を追跡していきます。</p>	 	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2024.8.31
1703	北部水産グループ	<p>【ヒジキ種苗生産 最盛期】 (2024. 6. 13発信)</p> <p>ヒジキが成熟するこの時期は、当グループでも種苗生産が最盛期となります。母藻の成熟状況を見極め、卵（0.2mm程度）の放出を待ち、水槽内の受精卵を目合い（めあい）0.1mm程度の網で集めます。 受精卵は発芽が進むと物に付く性質があるので、コンクリートブロックなどに付着させます。 こうして得た種苗を使用して養殖試験等に用い、ヒジキの繁る海を目指します。</p>	 	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2024.6.30
1696	北部水産グループ	<p>【オゴノリ天然採苗はじめました】 (2024. 6. 6発信)</p> <p>寒天原料や刺身のツマなどに利用されるオゴノリはこの時期に成熟します。当グループではオゴノリ養殖試験を行うため、6月4日に天然採苗を行いました。 宇佐市地先のオゴノリが生息している干潟上にノリ網を設置し、胞子の付着を待ちます。今後、胞子の付着状況を調査しながら天然採苗方法の確立を目指します。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2024.6.30
1686	北部水産グループ	<p>【赤潮・貝毒プランクトン調査 実施中！】 (2024. 5. 21発信)</p> <p>瀬戸内海域では水温が上がり、日差しが強まる5月頃から赤潮の発生が危惧されるため、周年で行っている貝毒プランクトン調査に加え、赤潮プランクトン調査も実施します。5月から9月の間、月に2回から3回の頻度で取水して調査を行います。 なお、昨年度も本県瀬戸内海域において赤潮や貝毒による漁業被害は発生しておりません。</p>	 	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2024.6.30
1682	北部水産グループ	<p>【新たなアユの遡上調査を実施中】 (2024. 5. 9発信)</p> <p>当グループでは毎年、大野川のアユの遡上時期や遡上サイズを把握するために、アユの遡上調査を実施しています。今年は遡上量も把握するため、初めて定置網を用いた捕獲を試みました。雨による増水で何度か中断しましたが、今後、新たな調査方法となるよう漁業者の意見等を参考に改善していきます。</p>	 	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2024.5.31

## 農林水産研究タイムリー情報

2025年3月31日時点

(合計159件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
<b>⑩農林水産研究指導センター(計3件)</b>						
1804	農林水産研究指導センター	<p>【論文賞・研究支援功労賞受賞！】 (2025.1.28発信)</p> <p>昨年3月から今年1月に学会等で表彰された農林水産研究指導センターの職員3名が、令和7年1月27日に、農林水産部長に受賞の報告を行いました。職員はそれぞれ受賞した論文の概要等を報告し、県の技術発展に向け意欲を新たにしていました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●日本農業気象学会論文賞 受賞 農業研究部果樹グループ 温州ミカンチーム   首席主幹研究員(チームリーダー) 矢野 拓</li> <li>●九州森林学会論文賞 受賞 林業研究部 森林チーム 主任研究員 松本 純</li> <li>●第3回研究支援功労賞 受賞 林業研究部 業務技師 金古 美輝夫</li> </ul>		農林水産研究指導センター 研究企画担当	0974-28-2074	2025.2.28
1803	農林水産研究指導センター	<p>【研究員資質向上研修・若手研究員研修開催！】 (2025.1.14発信)</p> <p>1月8日(水)に研究員の資質向上・若手研究員の発表能力向上を目的に大分市の県産業科学技術センター(以下、「産科技」)で研修会を開催しました。 産科技の宮沢センター長による講演「試験研究におけるPDCAサイクル」、同センター谷口主幹研究員による「労働衛生の3管理」のほか、若手研究員11名による「ポスターセッション」を実施しました。試験研究機関の連携を図るため、県衛生環境研究センター、産科技、県科学捜査研究所からの参加も募り、74名の研修となりました。 研究員の交流をきっかけに、新たな取り組みにつながることを期待しています。</p>	 	農林水産研究指導センター 研究企画担当	0974-28-2074	2025.1.31
1749	農林水産研究指導センター	<p>【来年度新規課題にむけて評価会議を行いました】 (2024.9.13発信)</p> <p>9月12日に大分市の県庁舎別館にて「農林水産試験研究課題評価会議」を開催しました。これは、来年度から取り組もうとする新たな試験研究が、より効果的・効率的なものとなるよう、流通、大学、生産者、生産団体の方々から評価や助言等を頂くものです。今回は、農業・畜産・林業・水産の各部門の計18課題が対象でした。 頂いた助言等を踏まえ、これから来年度の試験研究の組み立てを行っていきます。</p>		農林水産研究指導センター 研究企画担当	0974-28-2074	2024.9.30